

肥満症治療センター



1. スタッフ

医師：窪田 直人（センター長/糖尿病・代謝・内分泌内科）、岩槻 政晃（副センター長/消化器外科）、朴 秀賢（神経精神科）、瀬ノ口 隆文（糖尿病・代謝・内分泌内科）、井田 智（消化器外科）、井形元維（糖尿病・代謝・内分泌内科）、藤本 昌史（麻酔科）、江藤 弘二郎（消化器外科）、阪口 雅司（糖尿病・代謝・内分泌内科）

心理士：一美 奈緒子（心理支援センター）

栄養士：三島 裕子（栄養管理部副部長）、廣瀬 結衣

看護師：鏡堂 智子、石村 あさみ

薬剤師：山下 諒祐

理学療法士：嶋村 梨紗

2. チームの特徴、診療・業務内容

2024年、わが国において約30年ぶりに持続性GLP-1受容体作動薬が肥満症治療剤として承認され、また肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の保険適応基準が改定・拡大された。これらの変更により、①内科的治療による肥満症への対応がより効果的となり、②肥満外科治療がより積極的な選択肢として位置づけられるようになった。こうした背景を踏まえ、2024年11月「熊本大学病院肥満症治療センター」を新設し、肥満症および高度肥満症の患者を対象に、内科的な積極的治療と減量・代謝改善手術を含む、多職種による領域横断的かつ包括的な診療体制を整備した。

初診時には、医師の診察や看護師との面談に加え、心理士による面談も実施し、心理的サポート体制を整えている。また、月に一度、診療科・診療部門・職種横断的なカンファレンスを開催し、手術適応や経過について多職種で情報を共有・検討することで、各症例に対して適切かつ包括的な医療を提供している。さらに、患者への継続的なサポートと教育を通じて、肥満症の改善、健康の増進、そして生活の質の向上を目指している。

3. 体制

初診：火曜午後、水曜午後（担当：瀬ノ口）

再診：月～金（担当：糖尿病・代謝・内分泌内科医師）

完全予約制とし、初診時には基本的な検査、医師の診察に加えて、看護師・心理士との面談も実施している。食事療法においては、栄養士による定期的な栄養指導を中心に据え、運動療法や心理・行動療法も併せて行っている。患者の年齢、病態、治療内容、嗜好などの背景を考慮し、個別化された肥満症治療にチームで取り組む体制を整えている。今後は、患者会を設立し、肥満症治療

に関する情報や術後患者の体験談などを共有する場を設けることを予定している。

4. 活動実績

2024年11月の開設後、センター外来として、新患：34名（男性15名、女性19名）を受け入れ、これまでの肥満症治療患者を含め、2025年3月末の時点で50名ほどがセンターの定期外来を受診している。年度ごとの栄養指導件数では、「肥満症食」での栄養指導が、2024年度は351件と過去5年間の平均（135.2件）に比べ大幅に増加した。

肥満症を主病名とする入院も増加しており、2024年度は36件（過去3年の平均は20.3件）であった。

センター外来定期通院中の患者のうち、12名は減量・代謝改善手術前プログラムに則り内科的治療を行っている。適応を十分に検討のうえ、2025年8月以降、肥満症外科治療を行う予定である。

5. 地域医療への貢献

外来新患症例の約8割は院外からの紹介であり、これまで治療の対象とは認識されていなかった、あるいは本人が治療の必要性に気付いていなかった症例を掘り起こす体制が整った。2024年度はセンターの開設行事として、3月4日の世界肥満デーに合わせ、講演会を開催した。今後は医療機関だけでなく一般市民に対する広報活動、セミナーの開催等を通して、肥満症治療の啓発活動を推進していく。

6. 医療人教育の取組

医師、看護師、管理栄養士、臨床心理士、薬剤師、理学療法士から成る多職種チームを編成し、肥満症に対する包括的診療体制を構築した。日本肥満学会および日本肥満症治療学会への入会・参加に加え、肥満症診療において先進的な取り組みを行う他施設への見学を実施した。また、院内においては定期的にカンファレンスを開催し、多職種間での情報共有と症例検討を通じて、各職種が肥満症診療に必要な知識と実践的能力を修得する機会を設けている。今後は日本肥満症治療学会の定める「肥満症外科手術（減量・代謝改善手術）認定施設」の承認を受け、より高度な肥満外科治療が行える施設を目指して、医師・医療スタッフの教育・育成を行っていく。

7. 研究活動

該当なし